

アーバンデザインによる未来の実装 — なりたい姿を具現化する 前橋デザインコミッションの挑戦

都市再生推進法人 一般社団法人前橋デザインコミッション 事務局長 千明真貴

◇ “計画”から“ビジョン”へ まちの未来を動かす力

群馬県前橋市では、1990年代から2010年代にかけて大型商業施設が相次いで撤退し、中心市街地の空洞化が急激に進みました。市は2000年の中心市街地活性化基本計画から、都市計画マスタープラン、2011年の市独自の中心市街地活性化基本計画まで、イベントや個別の空き店舗対策でまちの賑わいを維持しようとしてきました。しかし相次ぐ大型店舗の閉店や撤退は続き、まちなかの衰退は止まりません。行政主導のハード整備による核づくりも結果に結びつきませんでした。日常的な歩行者の増加や持続的

な商業の復活はかなわず、市街地の低迷が続きました。

市街地の恒常的な落ち込みに、前橋を愛する若者の活動から始まり、徐々に民間主導でまちなかを再生しようとする動きが活発になってきました。「自分たちのまちのビジョンは、自分たちで描く」という強い意志のもと、まずは地元の企業人など民間が主体となって前橋ビジョン『めぶく。』が2016年8月に制定されました。“良いものが育つ場所”を意味するこの言葉は、単なる机上の計画や目標ではなく、前橋の将来像を共有するための“ビジョン”そのものです。

そして、ビジョンの誕生を契機に、多くの企業や団体が自発的に動き出しました。その力強いうねりの中で、前橋商工会議所が、前橋のコンセプトである水と緑と詩のまちを体現し、まちなみで地域経済の活性化を図ろうと掲げたまちづくり構想『GREEN&RELAX』を打ち出します。さらに、民間主導のアイデアや熱量を取り込み、前橋市と共に多くの市民の声を集めて策定したのが『前橋市アーバンデザイン』です [図2]。これはよくある行政

●図1 まちなかの衰退



●図2 前橋市アーバンデザイン イメージ&ロゴ

